

栃木県立宇都宮東
高等学校附属中学校
学習日より

Say! Go!! Can!!!

いってみよう

夢や目標を言ってみよう！
未知の世界に行ってみよう！！
できる領域へと入って見よう！！

4月

第2号
学習指導部
(文責 和久井)

令和2年4月21日
発行

TEL 028-656-5155
FAX 028-656-7540

学習の力で「コントロール感」を維持

新型コロナウイルス感染拡大防止のための休業中も、教職員の始業・終業時刻を知らせるチャイムが鳴っています。チャイムの音は学校で多く使われる「ウエストミスターの鐘」という歴(れっき)とした楽曲です。授業がなく、聞く回数は少ないものの、のどかな響きには、ほっとした安心感を覚えます。

昨年度末からの学校休業による授業や部活動等の中断は、生徒のみなさんに大きな不安をもたらしていることと思います。さらには新年度を迎え、期待とともに緊張や不安も小さくないと思われるこの時期まで学校の授業が行われていない現状です。すでに宇東附中の様子を知っている2・3年生のみなさんでも、休業期間に行われるはずだったテストや行事等が今後どうなるか不安でしかたがないという思いもあるでしょう。ましてや新1年生のみなさんとあつては、入学前の不安が解消されないまま、ずっと続いているのではないのでしょうか。

こういった不安について、「コントロール感(sense of control)の喪失」という視点から捉えようとする見方があります。普段であれば、自ら決めた時間に外出し、買いたいものを買ひ、会いたい人に会う、というように自分(自分たち)の思いのままにコントロールできていた日常が、今は奪われています。人間は自力ではどうにもできない状況に置かれると、とにかくやれることをやって失われたコントロール感を取り戻そうとするのだそうです。「買ひだめ」のような騒動が起こるのも、買ひだめの買いえないというコントロール感の喪失を穴埋めし、不安を軽減しようとしていると説明することもできるのです。

日常をいつも通りに続けることが難しい現状ですが、買ひだめのように他への迷惑にもなりかねない方法や、だらだらと時間を浪費するような行動でコントロール感を取り戻すのではなく、できること、やってよいこと、やるべきことに集中し、健全なコントロール感を維持したいものです。

参考までに6つのポイントを用意しました。休業あけにも、行事等の大幅な計画変更など、思い通りに立ちゆかない場面が想定されます。不安に駆られて立ち止まるのではなく、前向きに進んでいきましょう。

①「後輩」に教えることを考えよう

幼い子供や動物を世話することが誰かを守っているという自己評価を高め、不安を軽減するといわれます。学習も人に教えるつもりで行うことで学力形成に効果的であることがいわれています。

また部活動では引退・最高学年になる前に部の伝統を受け継ぐ後輩を「促成」しなければならず、指導が急務です。大会前に教えること、先輩として伝えることの優先順位や手立てを考えましょう。

1年生も、さらに後輩へと伝えるべく意識を高くもって臨みましょう。

②「6回以上」の繰り返しをしよう

諸説ありますが、英単語や計算練習、漢字練習等は間をおいて6回以上繰り返すことで、長期にわたって記憶されやすくなるということが行われています。

ノートの余白に何度取り組んだかの回数をチェックするなどして6回を数えてみましょう。

③「仲間」との連携意識をもとう

日常生活が思い通りでないことは、同じクラスや学年の「仲間」も同じです。事態が終息し、やがて思い出となって語れるとき、自分はこれを頑張ったと誇れるものがあると思います。

④「多角的」に捉えよう・考えよう

見えないウイルスを相手にした休業や外出自粛ですが、家で過ごすことで見えてきたこともあると思います。

家族の大切さ、報道の在り方、文化や芸術についての関わり方など、多角的に情報を得たり考えたりすることができる場面も多く持てたかと思います。学習にも生きる力です。大切にしましょう。

⑤「いつも」の大切さを感じよう

安定した生活リズムがコントロール感の維持に役立ちます。

コントロールできないことに気持ちをぶらさず、いつも通りの生活リズムを保つことで、安心と健やかな成長を得られることでしょう。

⑥「参画」の意識を確かめましょう

休業・外出自粛という形で感染拡大防止に寄与した、と前向きに捉えましょう。中学生でもできることをして社会に参画したと捉えましょう。

今後ともできることをしていこう、できることを広げていこうという気持ちをもつことが、休業をプラスにできる発想といえます。

チャイムを聞いてほっとするというのも日常生活を維持したい、取り戻したいという気持ちとつながっているのかもしれませんが、御家庭においても安心して学習に取り組める環境作り等について、引き続き御協力くださいますよう、お願いいたします。

休業による
学習計画について

休業に伴い、今年度の日程には大幅な変更が予想されます。学習についても事態の状況を鑑み、詳細をお伝えできることからお伝えします。

少しでも御安心いただけるよう、現状でお伝えすることについて整理します。

要点1・年間授業時間数の確保について

現行および来年度から実施の新しい中学校学習指導要領のいずれにおいても、中学校の年間授業時間数については「1015時間」と定められています。

令和2年度	年間授業時間数
小学1年	850
2年	910
3年	980
4年	1015
5年	1015
6年	1015
中学1年	1015
2年	1015
3年	1015

しかし、大切なのは決められた時数の確保ではなく、生徒のみなさんのより豊かな学びの実現です。効率のよい授業の展開に努めますが、必要となれば日程の変更もあり得ることをお含みおください。

要点2・定期・実力テスト等実施について

全国学力・学習状況調査は今年度の実施を取りやめることになりました。4月予定の学力推移調査も学校では実施しないことになりました。

定期・実力テストについて、前号の学習日より予定をお伝えしましたが、

- テスト範囲の確保はできる？
(特に中学1年生の1学期中間テスト)
 - テストの延期・複数回の統合は？
 - 授業に充当すべく短期間実施は？
 - 休業中の課題確認テストとして実施？
- 等、さまざまな角度から、効果的か、可能か、適切か、などの検討を行つたうえで、柔軟に対応することになっています。ポイントとしては

- ① 全生徒に対して公平・公正な学力確認の機会となるように設定する
- ② 日程等、生徒のみなさんの過度な負担となることを避けるように計画する
- ③ 実施にあたっては、テストに全力で取り組める環境・雰囲気づくりに努めるとなります。安心してテストおよびテスト対策に取り組めるよう、準備して参ります。